

教育福祉常任委員会会議記録（概要）

平成26年2月17日（月）

開 会 午後3時35分

【議 事】

特定事件 学校教育について

- ・所沢市立上山口中学校における重油流出について

【概要説明】

（委員了承のもと、執行部から資料が配付される）

西沢委員長

それでは、概要説明をお願いしたい。

平野教育総務
部長

冒頭、まず、所沢市立上山口中学校の重油流出につきましては、議員の皆様ほか、地域の住民の方々にご迷惑をおかけしまして誠に申し訳ございませんでした。改めてお詫び申し上げます。

初めに、経過と現状について申し上げます。昨年の暮れ、平成25年1月28日に地域住民から上山口中学校に対し、柳瀬川に油が浮いている旨の通報があり、29日から環境対策課や市の関係課、消防で調査を行った結果、30日に上山口中学校の暖房用の重油が漏れ、その一部が雨水管を經由して柳瀬川へ流れ込んでいることが判明しました。

直ちに、市としては関係各部で対応を協議するとともに、消防や埼玉県川越県土整備事務所の河川担当と重油の流出対策を検討しました。

まず応急対策として、河川へ流出している重油の量が、この時点における推計ではそこまで多くはないこと、また、重油は発火点が高く、危険性も低いことから、対策の一つとして河川へオイルフェンスを設置しました。また、さらなる重油の流出が起らないように、タンクの中に残っている重油を抜き取りました。それから、学校内の雨水ますに残っている重油については、下水担当の職員の応援を得てバキュームで吸引除去を行いました。年明けにおいても、継続してオイルフェンスに溜まった重油の除去作業を行い、平成26年1月7日に重油の漏えい調査を実施し、その時点で重油の送油管の漏えい箇所が特定できました。その後、漏えい箇所周辺を掘削して、油の除去や油を含んだ土壌の撤去作業を行うとともに、河川への油の流出を防止するため、オイルフェンスを今まで以上に増強して河川への流出を軽減しました。また、資料における図面のC地点の最終雨水ますに、配管トラップという油を上を浮かせ、下の水だけが雨水管に流れるというものを設置しました。それから、雨水管の柳瀬川への放流口付近に、グリストラップとして4つの水槽を置き、順番にそこを流れていく間に油が取れるようにしました。さらに、柳瀬川の重油が流出した雨水管付近の汚染された石や土壌の撤去を行うとともに、川に沈んでいる落ち葉等に油が付着していたため、河川の清掃を行いました。その結果、河川へ流出する油の量は減少し、現在、河川の油膜はほとんど認められなくなりましたが、オイルフェンスに溜まった油の除去作業と吸着マットの交換を継続して実施しています。

上山口中学校においては、暖房設備がこの間使用できないため、仮設の暖房器具として、いわゆるブルーヒーターというものを搬入し使用しています。

上山口中学校以外の暖房用の重油タンクが設置されている学校につきましては、重油タンク回りの漏れの確認や、重油の使用量と供給量を十分に確認すること等の文書配布を行うとともに、教育施設課の職員が目視点検を実施し、ほかの学校については異常のないことを確認しています。

今後については、まず、重油の流出の経路が明らかになっていないため、流出の経路や汚染状況を把握するために、専門業者にボーリングの調査を委託し、必要に応じて汚染除去を実施する予定です。また、今回の埋設配管の重油漏れの対策としては、一つは、重油タンクの点検マニュアルをもう一度整備をしていくこと、それから、小中学校に埋設されている重油の配管については、30年以上経過している学校が多いため、来年度予算において、何とか目視点検できるように配管を改修していくことが一番よいことから、来年度、全校の改修を予定している状況です。概略については以上です。

【質 疑】

城下委員

毎週のように雪が降っている中では、子ども達の教育環境を守っていかなければならないわけであるが、先ほどの説明では、埋設配管については、30年以上経過している学校がほとんどであり全校の目視点検等の対応

を進めていきたいとのことであったが、どこも同じような設備なのか。

北田教育施設
担当参事

暖房に重油を使用する学校、ガスを使用する学校がありますが、配管については、ほとんど同じ配管であり、タンクから油を吸ってボイラーで燃やす形態です。暖房に重油を使用する小学校は13校、中学校は9校です。ガスを使用する小学校は4校、中学校は2校です。宮前小学校は冷暖房が入っています。

城下委員

現在、修繕計画のもと、いろいろな公共施設の修繕を行っているが、その中にはこういった箇所の修繕について事前に検討事項として入っていたのか。また、そもそも計画内に入っていたのか。

北田教育施設
担当参事

計画には入っていません。

城下委員

今回の調査結果を踏まえ、その点については計画の中に盛り込んでいくという認識でよいか。

北田教育施設
担当参事

埋設の配管については、来年度予算で修繕を行う予定です。

末吉委員 現在は油膜の状態は落ち着いているとのことであったが、完全に元に戻ったという感じではないのか。

北田教育施設 現在、河川への流出は、グリストラップ等によりほとんど見られません。
担当参事 ただし、資料の図面におけるC地点には、まだ若干の油が出ていますので、除去作業をしている状況です。

末吉委員 先ほど、通報が平成25年12月28日にされたとのことであったが、流出が始まったのはそれより前ということもあるわけか。

北田教育施設 今回調査したところ、去年までは異常がないことは分かっています。平
担当参事 成25年12月20日に学校が終了し、その時のタンク内の重油の残量は一定量ありましたが、学校が休みで暖房を使用していない期間中にもかかわらず、油が減っている状況があり、上山口中学校から漏れているということがわかりました。

末吉委員 平成25年12月28日の住民の通報から話が始まったかと思っただ、対策を取るまでの年末年始の間で、かなりの量が河川等へ流出したかと思うが、やはり川は最終的には飲み水につながっていくというものでもあるので、健康面への影響も懸念されることから、水質については確認したのか伺いたい。

北田教育施設 担当参事	事故が起きた日には水質は若干濁っていましたが、それ以降、官能試験 とって匂いを嗅ぐといった試験を環境対策課の指導を受け行いましたが、現状では河川における油の匂いはない状況です。
末吉委員	そういうことではなく、河川に流れたことへの、例えば、水質や生態系、 周辺への被害等の状況は調査しているのかということについて伺いたい。
北田教育施設 担当参事	状況については、平成25年12月31日に、下流まで河川課の職員と ともに当課の職員が回り、油の状況について確認を行いました。魚等の生 物の浮上等は認められませんでした。匂いはありました。
末吉委員	環境クリーン部の担当になるかもしれないが、そういうところとは連携 はしているのか。また、今後、そういうことは検討しているのか。
北田教育施設 担当参事	事故が起きた日から、河川課、環境対策課、危機管理課が集まり調整を しています。
亀山委員	約550リットルの重油が漏れていたとのことであるが、実際、川に入 った量の大体の数値は把握しているのか。
平野教育総務	平成26年1月6日に記者発表をした時点では、学校が冬休みで終了し

部長

たとき、約650リットルの量がタンクにありましたが、発見した際に約100リットルしか残っていなかったものですので、約550リットルが漏れたと推計をしました。そのため、その一部が川に流れたものであると考えました。その後、穴を掘ったり、バキュームで吸い上げたりし、そこに油の濃土等があり、結局、流出した量の推計としては、その前からその管から漏れていた分もあるので、1,420リットル程度の流出があったものと考えています。

しかし、バキュームによる吸引等、回収した量としては1,340リットル程度であり、川に流出したのは差引80リットル程度ではないかと推測しています。土の中であるため、はっきりとした量の確定は難しいのですが、計器等の確認をした結果からは、おそらく河川には約80リットルが流出したと考えています。

矢作委員

米軍通信基地で重油漏れがあり、その時にはすごく大きな穴を掘り、土壌の入替を行ったことを記憶しているが、今後、そういった対策は必要なのか。また、資料の写真はどこなのか。

北田教育施設
担当参事

写真資料の上部の写真は、A地点です。この配管まで防蝕テープを巻き、コンクリートトラフに入れて地中に埋設されていたものです。圧力試験を行い漏えい箇所が発見されました。コンクリートで保護されていますが、かなり老朽化が進んでいます。右の写真は分かりづらいのですが、水圧試

験を行い、漏れる原因となった穴を確認しているところです。水が下に溜まっている様子がわかるかと思います。次に、下部の左の写真の掘削状況について、黒い蛇腹の管が電気の配管です。左から右へコンクリートの配管がありますが、これが雨水管です。これもA地点ですが、漏れた油は掘削して埋め戻した土のところを通過して雨水管へ入ったと考えています。写真で見ていただくように、管の底部は関東ローム層の赤土であり、穴を掘った状況では、その赤土の上に重油が溜まっていたので、その油は全て回収しました。そのため、現状ではこの赤土の上にあった重油は全部回収した状況です。黒く見えているのは、油で汚れたのではなく、管を保護するための砂です。この砂のところを通過して雨水管へ漏れたということであり、地面の下へは流れていないと推測しています。また、次に、右側の川の写真ですが、これはグリストラップとオイルフェンスの写真です。河川放流口であり、高橋付近の河川放流口の写真です。グリストラップとして、左側にコンクリートのますが4つあるかと思いますが、ここに流れてきた雨水を入れ、油だけを浮かせ、上の白いマットにより浮いてきた油を取るようにしています。円形に浮いた筒のようなものがありますが、これがオイルフェンスであり、ここで油を止め、四角いマットで油を吸着しています。下流へ行くと、もう一つ円形のオイルフェンスとマットがあり、その下にブルーのシートがありますが、これもオイルフェンスであり、ここで水を止め、油を吸着している状況です。

矢作委員 汚染した土は全て取り除いている状況であり、これ以上は必要ないという
ことか。また、地下水には影響はないのか。

北田教育施設 現状、漏えい原因の管の場所付近については全部掘りあげ、汚染された
担当参事 土は取り除いてあります。ブルーシートで養生をして包んでありますが、
今後産業廃棄物として処理します。地下水については、下流の南斜面のと
ころに、4つの井戸があり、その内の使用している1つの井戸については
匂いを確認しました。油は認められませんでした。地下水の状況は、これ
からボーリング調査を行い、汚染状況を確認します。

中委員 来年度、対象となる学校は改修工事を行うとのことだが、概算でどの程
度の費用を要するのか。

北田教育施設 小学校が600万円、中学校が400万円で、合計で1,000万円を
担当参事 予定しています。

【質疑終結】

西沢委員長 特定事件「学校教育について」のうち、「上山口中学校における重油流
出について」は、審査を終結することによろしいか。（委員了承）

（説明員退室）

【議 事】

特定事件 保健・医療について

- ・ 歯科口腔保健の推進について

西沢委員長

本日の審査は、過日実施したパブリックコメントを受けて、意見に対する委員会の考え方を協議する予定でしたが、2月3日から14日までの間に募集したところ、ご意見はありませんでした。そういう状況を踏まえ、条例案を固めるとともに、今後の工程等について協議を進めたいと思います。

ここでお諮りします。本則の条例案については、パブリックコメントに示した際の素案のとおりとしてよろしいか。（委員了承）

また、今後の工程については、平成26年3月7日（金）に常任委員会審査を行う予定なので、付託された議案の審査の終了後に、まず附則を入れた条例案を皆さんへ示したい。そこで条例案を確定させて、3月12日

（水）の議員提出議案の提出締め切りまでに議長へ報告し、議会運営委員会において協議をしてもらうことを考えています。そして、定例会の最終日に提案するという流れを想定しています。

ここで、お諮りします。特定事件「保健・医療について」のうち、「歯科口腔保健の推進について」は、継続して審査をすることとしてよろしいか。（委員了承）

また、本件の今後の工程については、先ほど申し上げたとおりとしてよ

ろしいか。(委員了承)

散 会 午後4時11分